The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	基体動詞の反義語となるスウェーデン語の不変化動詞について
Author(s)	當野, 能之
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2019, 23, p. 17-28
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71769
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

基体動詞の反義語となるスウェーデン語の不変化詞動詞について

當野 能之

1. はじめに

スウェーデン語の不変化詞動詞 (partikelverb) [1]には動詞が表す結果状態と逆の結果状態を表す例が散見される．次の例を見てみよう．

(1) Jag låste dörren till mitt rum ... (Parole)
I locked the.door to my room
「私は自分の部屋のドアのカギをかけた.」

(2) Jag låste upp dörren till korridoren ... (Parole)
I locked up the.door to the.corridor
「私は廊下のドアのカギを開けた.」

動詞 låsa は単独で使われた場合，(1)にあるように「カギをかける」という意味になる．一方，不変化詞 upp[2] 'up'を伴った場合は(2)に見るように「カギを開ける」となり，元の動詞（以後，基体動詞と呼ぶ）が表す結果状態と逆の結果状態を表す．しかし，このような現象はどのような動詞においても見られるわけではない．

(3) Hon stängde dörren till salen. (Parole)[3]
she closed the.door to the.hall
「彼女はホールのドアを閉めた.」

(4) *Hon stängde upp dörren till salen.
she closed up the.door to the.hall
「彼女はホールのドアを開けた.」

(3)にあるように動詞 stänga は「閉める」という意味を表すが，それに不変化詞 upp を付けたとしても，「開ける」という逆の意味にはならない（=(4)）．

---

1 小辞動詞，句動詞，分離動詞などと呼ばれることもあるが，本稿では不変化詞動詞という用語を用いることにする．スウェーデン語の不変化詞動詞全般については，Norén (1996)，Strzelecka (2003)，清水他（2016），Teleman *et al.*（1999）などを参照のこと．

2 不変化詞 upp には 'öppen'（開いている）という意味もあり，ここではその意味で使われている．詳しくは Strzelecka (2003: 229-232)などを参照のこと．

3 本稿ではコーパス検索システム Korp（http://spraakbanken.gu.se/korp/）からの例文を載せている．例文の後に括弧で示されているのは，Korp 内のコーパス名である．コーパス名の記載がないものは作例による．

2. 目的

本稿では，(2)の例文にみられるような基体動詞の表す結果状態と逆の結果状態を表す不変化詞動詞に，どのようなものがあるかを調査することを目的とする．管見の限り，このような問題を扱った論文は無いように思われる．例えば，上記の(2)の例文に見られる不変化詞 upp を扱った Strzelecka (2003: 229-232)は，当該の現象の存在を述べてはいるが，それ以上の分析は行っていない．そこで本稿では，①どのような不変化詞が，②どのような基体動詞と結びついた時に，その基体動詞と逆の結果状態を表すのかを明らかにすることを目的とする．

3. 方法

データーの収集であるが，本稿では 2 つの方法を用いた．まずは，英語・スウェーデン語辞書を用いたデーターの収集である．(2)の例を見て想起されるのは，unlock「鍵を開ける」のような，英語の un-動詞である（Yumoto 1997 などを参照）．英語では，接頭辞 un-が動詞についた場合，基体動詞が表すのと逆の結果状態を表す．例えば，lock「鍵をかける」に接頭辞 un-をつけた unlock は「鍵をあける」という意味になり，スウェーデン語の(1)と(2)の例と並行的にとらえることができる．そこで，英語・スウェーデン語辞書（*Stora engelsk-svenska ordboken*）の中で，接頭辞 un-がついた派生動詞の項にあるスウェーデン語訳から，当該の不変化詞動詞を探すことにした．例えば，unlock の項には låsa upp という不変化詞動詞が掲載されていて，このような例を収集した．しかし，例えば unarm「武装解除する」の項に掲載された avväpna のように，väpna「武装させる」に接頭辞 av-がつくような例などもいくつか見られたが，これらの例は不変化詞動詞ではないため，今回は対象外とした．また，unzip「ファスナーを引いて開ける」の項にある dra ner のように，dra「引っ張る」と ner「下へ」のように基体動詞の逆の意味をあらわさないような例についても当然対象外とした．

判断に困る例もいくつか存在した．

(5) Spänn fast säkerhetsbältet! (GP 2002)
tighten firm the.seat.belt
「シートベルトを締めなさい！」

(6) Han spände av sig säkerhetsbältet ... (Bonniersromaner I)
he tighten off himself the.seat.belt
「彼はシートベルを外した．」

動詞 spänna には「留め具で留める」という意味があるが，動詞単独では用いられず，不変化詞 fast「しっかりと」と共に用いられる．unbackle「留め具を外す」の項には，spänna av という不変化詞が掲載されていて，一見すると当該の不変

化詞動詞のように見えるが，動詞 spänna だけでは「留め具で留める」という意味で用いられないことから，このような例は今回の対象から外すこととした．

さて，上記の英語・スウェーデン語辞書を用いた方法では，英語の un-動詞に対応する不変化詞動詞しか収集することができない．そこで，Holmgren Ording（1998）の不変化詞動詞リストも調べることにした．この本はスウェーデン語の不変化詞動詞の学習書ではあるが，169 個の基体動詞を元にした不変化詞動詞のリストが，例文と共に約 110 頁にわたって掲載されている．

4. 結果

以下では，不変化詞と動詞に分けて，結果を見ていく．

4.1. 不変化詞

当該の現象を示す不変化詞には，av ‘off’，ur ‘out of’，upp ‘up’，ut ‘out’ が見られた．一つずつ見ていこう．

不変化詞 av ‘off’は主に「離れる」ことや「切り離される」ことを意味する（Norén 1996 などを参照）．

(7) De lastade den gamla bilen full vid varje besök. (SUC-romaner)
they loaded the old the.car full at every visit
「彼らは訪れる度にその古い車いっぱいに荷物を載せた．」

(8) De har lastat av bilen. (Bonniersromaner I)
they have loaded off the.car
「彼らは車から荷物を降ろした．」

上記の例では，動詞 lasta が「（荷物を）載せる」という意味であるが，不変化詞 av を伴うことで，「（荷物を）降ろす」という逆の意味になる．

不変化詞 ur ‘out of’には，「内部から外へ」「内部を空に」（清水他 2016: 322）という意味がある．

(9) Men chauffören ska inte gå ut och börja lasta ur bilen. (GP2010)
but the.driver will not go out and begin load out.of the.car
「しかしその運転手は外に出て，荷物を降ろし始めるつもりはない．」

(9)では(7)と同じ lasta という動詞が使われているが，不変化詞 ur を伴い，「（荷物を車の中から）降ろす」という意味で使われている．

次に，不変化詞 upp ‘up’の例を見てみよう．upp には「上へ」という基本義に加えて，「開く」という意味がある（Strzelecka 2003 など参照のこと）．

(10) Robert knäppte skjortan och drog till svångremmen. (Parole)
Robert buttoned the.shirt and tightende the.belt

「Robert はシャツのボタンを留めて，ベルトをきつく締めた.」

(11) Henrik knäppte upp skjortan i halsen ... (Parole)
Henrik buttoned up the.shirt in the.neck
「Henrik はシャツの首のボタンを外した.」

(10)からも分かるように，動詞 knäppa は「ボタンを留める」という意味があるが，不変化詞 upp と共に不変化詞動詞を形成すると，「ボタンを外す」という意味になる（=(11)）．次の例にあるように，「ボタンを留める」という意味では不変化詞 igen ‘shut, closed’ をつけることもできるが，義務的ではない.

(12) Han knäpper igen skjortan ... (Äldre svenska romaner)
he buttoned shut the.shirt
「彼はシャツのボタンを留める.」

最後に，不変化詞 ut ‘out’を見てみよう．不変化詞 ut には「外へ」という基本義に加えて，「外に広がって」という意味がある（Strzelecka 2003 など参照のこと）.

(13) Laura dukade bordet och vek servetter. (SUC-romaner)
Laura set the.table and folded napkins
「Laura はテーブルセッティングをして，ナプキンを折りたたんだ.」

(14) Pete viker ut en servett och lägger den i knät. (Parole)
Pete fold out a napkin and lay it in the.knee
「Pete はナプキンを広げ，膝の上に置く.」

(13)にあるように，動詞 vika は「折る」という意味であるが，不変化詞 ut がつくと，「広げる」という反対の意味になる（=(14)）．また，次の例にあるように，「折る」という意味では，不変化詞 ihop ‘together’をつけることもできるが，義務的ではない.

(15) Clara viker ihop sin servett och reser sig. (Bonniersromaner II)
Clara fold together her napkin and stand up
「Clara はナプキンを折って，立ち上がる.」

以上，ここまで見てきたように，「載せたものを降ろす（=(8),(9)）」，「閉じたものを開く（=(11)）」，「閉じたものを広げる（=(14)）」のように，av や ur のような「分離」を表す不変化詞[4]や，upp や ut のような「展開」を表す不変化詞が基体動詞と共に不変化詞動詞を形成することで，基体動詞と逆の結果状態を表すようになることが分かった.

---

4 今回調査した中には現れなかったが，loss ‘loose’，isär ‘apart’などの「分離」を意味する不変化詞も，koppla「つなぐ」などの動詞と結びついた際に，koppla loss，koppla isär「外す，自由にする」などの意味になり，当該の現象を示すことがある.

4.2. 動詞

次に動詞について見ていきたい．当該の現象を示す動詞の多くは，名詞派生動詞であることが分かった．例えば，(1)の動詞 låsa「鍵をかける」には対応する名詞 lås「錠」があり，名詞派生動詞であることが分かる[5]．一方，(3)の stänga「閉じる」にはその元となる名詞はなく，名詞派生動詞ではない．以下では，当該の現象を示す基体動詞に関して，派生元の名詞との関係から分類していく．

4.2.1. 移動物

まず，一種の移動物とみなせる名詞から派生した動詞の例を見ていこう．例えば，lasta「(荷物を）載せる」という動詞は last「荷物」からの名詞派生動詞である．(7)の例で考えると，「荷物が車へと移動」したと考えらえる．そして，その名詞派生動詞に不変化詞 av をつけた(8)では，「荷物が車から外へと移動」していて，移動の方向性が逆になっていることが分かる．このような例には以下のようなものが挙げられる．

(16) 移動物

名詞	名詞派生動詞	不変化詞動詞
kläder 「服」	klä(da)「着せる」	klä(da) av 「脱がせる」
kork「コルク」	korka「コルクで閉める」	korka upp「コルクを開ける」
last 「荷物」	lasta 「(荷物を）載せる」	lasta av 「(荷物を）降ろす」
lass 「荷物」	lassa「(荷物を）載せる」	lassa av 「(荷物を）降ろす」
rigg 「船の索具」	rigga「索具をつける」	rigga av 「索具を外す」
sadel 「馬具」	sadla 「馬具をつける」	sadla av 「馬具を外す」
sele 「馬具」	sela「馬具をつける」	sela av 「馬具を外す」

(17)は動詞 klä(da)「着せる」の例であるが，これも「衣服が身体へと移動」するものとして捉えられ，(18)の不変化詞動詞では移動の方向性が逆になっている．

(17) Han klädde sig i varma strumpor och stövlar. (Parole)
he dressed himself in warm stokings and boots
「彼は温かい靴下とブーツを履いた．」

(18) De började klä av sig. (Parole)
they began dress off themselvs
「彼らは服を脱ぎ始めた．」

---

[5] *Svensk ordbok* によると名詞 lås の初出は 1200 年代の終わり，動詞 låsa の初出は 1300 年代の前半ということで，動詞 låsa は通時的にも名詞派生動詞と考えて良いであろう．しかし，今回取り上げた動詞すべてについて，名詞の初出が対応する動詞の初出に先行するわけではない．名詞派生動詞の詳細については今後の課題としたい．

名詞 sadel「馬具」からの派生動詞である sadla は,「(馬に) 馬具をつける」という意味であるが (=(19)), (20)にあるように不変化詞 av を伴うことで,「馬具を外す」という意味になり, 移動の方向が逆になる.

(19) Ben och Aidan sadlade hästarna i gryningen... (Norstedtsromaner)
Ben and Aiden saddled the.horses in the.dawn
「Ben と Aiden は夜明けに馬たちに馬具を付けた.」

(20) Jag sadlade av hästen själv. (Bonniersromaner II)
I saddled off the.horse self
「私は自分で馬の馬具を外した.」

以下も同様の例であると考えられる. 名詞 kork「コルク」からの派生動詞である korka は,「コルクで栓をする」という意味だが, 不変化詞 upp を伴うことで,「コルクを外す」つまり「瓶を開ける」という意味になる.

(21) Korka genast och förvara svalt och mörkt. (GP2002)
cork immediately and keep coolly and darkly
「コルクの栓をして涼しく暗いところに保存しなさい.」

(22) Jag ska korka upp en flaska vin i kväll ... (GP2003)
I will cork up a bottle wine tonight
「今晩ワインを一瓶開けるつもりだ.」

4.2.2. 道具

次は道具と捉えられる例である. 例えば(23)の動詞 regla は名詞 regel「閂 (かんぬき)」からの派生動詞である.「閂を使ってドアを閉める」という意味から, 閂が一種の道具として機能していることが分かる. (24)にあるように, この動詞に不変化詞 upp をつけると,「閂を外す」という元の状態に戻すことを意味するようになる.

(23) Hon reglade dörren. (Äldre svenska romaner)
she bolted the.door
「彼女はドアに閂をかけた.」

(24) Han reglade upp dörren ... (SUC-romaner)
he bolted up the.door
「彼はドアの閂を外した.」

このような「道具」の例には以下のようなものが挙げられる.

(25)　道具

名詞	名詞派生動詞	不変化詞動詞
knapp 「ボタン」	knäppa[6] 「ボタンを留める」	knäppa upp 「ボタンを外す」
lås 「錠」	låsa「錠をかける」	låsa upp 「錠を外す」
regel 「閂（かんぬき）」	regla「閂をかける」	regla upp 「閂を外す」
skruve 「ねじ」	skruva「ねじを締める」	skruva av 「ねじを外す」
snöre 「紐」	snöra「紐を締める」	snöra av 「紐を解く」

次の(26)は，名詞 snöre「紐」の派生動詞である snöra「紐を締める」の例であるが，これも「紐を使って靴を締める」ということで，紐を一種の「道具」と考えてよさそうである．

(26) På träbryggan　där　de　snörde　sina　skridskor... (SUC-romaner)
on　the.wooden.pier　where they lace　their　skates
「彼らがスケート靴の紐を結んでいた木製の桟橋で ...」

(27) Hon　snörde　av　hans　kängor. (SUC-romaner)
she　laced　off　his　boots
「彼女は彼のブーツの紐を解いていた．」

次の例も同様に一種の道具であると考えらえる．

(28) Joel　skruvade　hatten　av flaskan. (SUC-romaner)
Joel　screwed　the.top of the bottle
「Joel はボトルの栓を回して閉めた」

(29) Hon　skruvade　av　kapsylen och drack några klunkar. (Norstedtsromaner)
she　screw　off　the.cap　and drank some gulps
「彼女はキャップを開けゴクゴクと飲んだ．」

4.2.3. 結果物

最後は結果物である．以下の(30)，(31)は(26)，(27)の例と似ているが，動詞の成り立ちを見るとかなり違っていることが分かる．knut「結び目」は「結んだ結果出来たもの」つまり「結果物」であると言うことができる．そして，動詞 knyta は「結ぶ」という意味になり，(31)にあるように不変化詞 upp がつくと「(結び目を）解く」という意味になる[7]．

---

6 不変化詞動詞 knäppa av には,「ボタンを押して（テレビなどを）切る」という意味があるが，これに対応するのは，不変化詞 på ‘on’のついた knäppa på「ボタンを押して（テレビなどを）つける」であり，基体動詞単独ではないため，今回の対象からは外れる．

7 名詞 knut と動詞 knyta の間には語源的には関連があるが，knyta が knut からの名詞派生動詞であると分析できるかどうかについては，詳細な議論が必要である．

(30) Jag knöt skorna igen. (Parole)
I tied the.shoes again
「私は再び靴紐を結んだ.」

(31) Jag var tvungen att knyta upp skorna igen . (Norstedtsromaner)
I was forced to tie up the.shoes again
「私は再び靴紐を解かざるをえなかった.」

「結果物」の例と考えらえるものに，次のようなものがある.

(32) 結果物

名詞	名詞派生動詞	不変化詞動詞
knut 「結び目」	knyta 「結ぶ」	knyta upp 「結び目を解く」
nystan 「糸球」	nysta 「(糸球を) 巻く」	nysta av 「(糸球を) 解く」
packe「つつみ，荷」	packa 「荷を詰める」	packa upp 「荷を解く」
rulle 「巻いたもの」	rulla 「巻く」	rulla ut 「(巻いたものを) 広げる」

例を見ていく. (33)にあるように動詞 nysta は「毛糸を巻いて毛糸球 (nystan) を作る」ことを意味する. (34)では不変化詞 upp と共に不変化詞動詞を形成して，「毛糸球を解く」という基体動詞とは逆の意味になる.

(33)... jag satt på gården och nystade garn ... (Äldre svenska romaner)
I sat on the.backyard and winded wool
「私は裏庭で毛糸を巻いて糸球にしていた.」

(34)... hon nystade upp garnet. (Äldre svenska romaner)
she wind up the.wool
「彼女は毛糸の玉を解いた.」

動詞 rulla には「巻く」という意味があるが，これは名詞 rulle「巻いたもの」と関連があり，名詞派生動詞であると考えられる. この動詞も不変化詞動詞 ut を伴うことで,「広げる」という反対の意味になる (=(36)).

(35) Rulla mattan hårt efter tvätt för att släta ut veck. (GP2010)
role the.carpet firmly after washing to smooth out folds
「しわを伸ばすために洗濯後カーペットをしっかりと巻きなさい.」

(36) ... hon kan rulla ut mattan och ställa möblerna ... (Norstedtsromaner)
... she can role out the.carpet and put the.furniture
「彼女はカーペットを広げて家具を置くことができる.」

4.2.4. 名詞派生動詞ではない例

名詞派生ではない動詞もいくつか見つかった．例を見てみよう．

(37)... Olof vecklade ut den gamla kartan över Uppland ... (Norstedtsromaner)
Olof folded out the old the.map over Uppland
「Olof は古いウップランドの地図を開いた．」

(38) Pete viker ut en servett och lägger den i knät. (Parole) (=14)
Pete fold out a napkin and lay it in the.knee
「Pete はナプキンを広げ，膝の上に置く．」

上記の例の不変化詞動詞には，以下のような対応する基体動詞が存在する．

(39) 名詞派生でない動詞

動詞	不変化詞動詞
veckla 「巻く，折る」	veckla ut「(巻いていたものを) 開く」
vika 「折る」	vika ut「(折ったものを) 広げる」

Svensk ordbok によると，どちらも語源的には名詞 veck「折り目，しわ」と関連があることが指摘されているが，名詞派生動詞であると分析できるかどうかについては，詳細な議論が必要であろう[8]．

5. 考察

以上，主に名詞派生動詞が「分離」や「展開」を表す不変化詞と共に不変化詞動詞を形成した際に，基体動詞の結果状態と逆の結果状態を表すということが明らかになった．以上の結果を踏まえたうえで，なぜ名詞派生動詞なのか，そしてなぜ「分離」や「展開」を表す不変化詞なのかという問題について考察を行っていく．

まずは，なぜ「分離」や「展開」を表す不変化詞なのかという問題について考えていきたい．4.2 では「移動物」,「道具」,「結果物」を表す名詞から作られた動詞があることを見たが，どれも双方向の変化が考えらえるものであることに注意が必要である．例えば，(17)で見た動詞 klä(da)「服を着る」は，名詞 kläder「衣服」からの派生動詞である．「衣服」はもちろん身に着けることを目的とするが，その逆である「体から取り外す」，つまり服を脱ぐというという行為も当然存在する．したがって，この逆の行為を表すために「分離」の意味を表す不変化詞を用いていると考えられる．興味深いのは，そのような双方向の移動が想定できないような名詞派生動詞である．次の例を見てみよう．

---

8 今回の調査の範囲では出てこなかったが，名詞派生動詞ではない例として，boka「予約する」と boka av「予約を取り消す」がある．*Svensk ordbok* には，この動詞は英語の book からの借用であるとの記述がある．

(40) Hon skalade potatis. (Bonniersromaner II)
she peeled potato
「彼女はジャガイモの皮をむいた.」

(41) Mats Lija barkar timmerstockar. (Parole)
Mats Lija bark timber.logs
「Mats Lija は丸太の樹皮を剥ぐ.」

(42) Ta bort huvud, rensa buken och fjälla fisken. (GP2002)
take away head clean the.belly and scale the.fish
「頭を取り，腹を洗いそして魚の鱗を取りなさい.」

(40)は名詞 skala「皮」，(41)は名詞 bark「樹皮」そして(42)は名詞 fjäll「鱗」という名詞から作られた動詞を含む文である．これらで想定されるのは「分離」方向の移動，例えば(40)では「ジャガイモから皮を取る」という方向であり，逆方向の移動は通常あり得ない．このような場合には，上記の例文からも分かるように「分離」を表す不変化詞をつける必要はなく，動詞のみで表現される[9]．以上を考えると，名詞派生動詞の形成に際して，双方向の移動や変化が想定される場合に，「分離」や「展開」への移動や変化において，不変化詞をつける必要があると考えられる．

次になぜ名詞派生動詞なのかという点について考えたい．1 でも見たように，動詞 stänga「閉じる」は，不変化詞 upp をつけて，「開ける」という逆の意味にはならない．

(43) Hon stängde dörren till salen. (Parole)（＝(3)）
she closed the.door to the.hall
「彼女はホールのドアを閉めた.」

(44)*Hon stängde upp dörren till salen.（＝(4)）
she closed up the.door to the.hall
「彼女はホールのドアを開けた.」

しかし，動詞 stänga が不変化詞動詞を形成できないわけではなく，その基体動詞の結果状態と矛盾しない限りにおいては，不変化詞を付加することができる．例えば以下の例では，不変化詞 igen ‘shut, closed’と共に不変化詞動詞を形成している．

---

9 ただし，内部からの分離が想定されるような場合は，不変化詞 ur を必要とする場合もある．例えば，「(果物などの）芯」を意味する kärna からの派生動詞である kärna「芯を取る」は以下のように不変化詞 ur を義務的に取る．
Kärna ur och hacka dadlarna och valnötterna grovt. (GP2010)
core out.of and chop the.dates and the.walnuts coarsely
「ナツメヤシとクルミの芯を取って粗く刻みなさい」

(45) Jag stängde igen dörren. (SUC-romaner)
I closed shut the.door
「私はドアを閉めた.」

つまり，名詞派生動詞であろうが，通常の動詞であろうが不変化詞動詞は形成できるわけであるが，後者においては基体動詞の結果状態と矛盾するような不変化詞をつけることはできないということになる.

以上を考えると，名詞派生動詞の形成と一部の不変化詞動詞の形成が同じレベルで起こっていると考えるのが妥当であろう．つまり，名詞を動詞化の後に不変化詞動詞の形成が起こるのではなく，名詞の動詞化と不変化詞動詞の形成が同時に起こっていて，双方向の変化が想定される名詞においては，「分離」や「展開」の方向の変化を表す場合に，不変化詞動詞を形成するということである．どのような理論において，このような問題が説明可能であるかについては，今後の課題としたい.

6. まとめ

本稿では，名詞派生動詞が「分離」や「展開」を表す不変化詞と共に不変化詞動詞を形成した際に，基体動詞の結果状態と逆の結果状態を表すということを明らかにした．今回は，基体動詞と逆の結果状態を表す不変化詞について扱ってきたが，以下のようないわゆる関係的対立を表す反義性を示す例についても考察可能であるか考える必要がある.

(46) Min bror hade hyrt en möblerad lägenhet. (Bonniersromaner II)
my brother had rented a furnished apartment
「私の弟は家具付きのマンションを借りていた.」

(47) Hans mor hyr ut möblerade rum ... (Bonniersromaner I)
hans mother rent out furnished rooms
「彼の母は家具付きの部屋を貸し出している.」

上記の例では，動詞 hyra は「借りる」という意味であるが，不変化詞 ut をつけると「貸す」という意味になる．同様の例に，lära「教える」と lära in「学ぶ，身につける」がある．どちらも hyra「賃貸料」，lära「教え，学」という対応する名詞がある点でも，今回見てきた現象と平行しているが，これらの不変化詞動詞の研究は今後の課題としたい.

Om partikelverb som beskriver motsatsen till simplex i svenskan

Takayuki Tohno

Denna artikel handlar om partikelverb som uttrycker motsatsen till simplexformen som i t.ex. *låsa upp dörren* vs. *låsa dörren*. Huvudsyftet med uppsatsen är att visa vilka simplexverb och vilka partiklar som kan ingå i denna typ av partikelkonstruktion. Exemplen har hämtats från en ordbok och en lärobok som innehåller en lista med partikelverb. Utredningen visar att det är verb avledda av substantiv (typ: *lås* – *låsa*, *last* - *lasta*, *knut* - *knyta*) som hör till kategorin i fråga. När dessa verb följs av partiklar som om, *av*, *ur*, *ut* samt *upp* i betydelsen 'öppen', beskriver partikelverbet motsatsen till simplexverbet som i t.ex. *låsa upp dörren*, *lasta av bilen*, *knyta upp skorna*.

付記

本研究は JSPS 科研費 18K00830 及び 17K02680 の助成を受けたものである.

参考文献

Holmgren Ording, Hans. 1998. *Se upp! Svenska partikelverb*. Stockholm: Natur & Kultur.

Norén, Kerstin. 1996. *Svenska partikelverbs semantik.* Göteborg: Göteborgs universitet.

清水育男，ウルフ・ラーション，當野能之．2016．『スウェーデン語』．大阪：大阪大学出版会.

Strzelecka, Elżbieta. 2003. *Svenska partikelverb med in, ut, upp, och ner: En semantisk studie ur kognitivt perspektiv.* Uppsala: Uppsala universitet.

Svenska Akademien (ed.). 2009. *Svensk ordbok.* Stockholm: Norstedts.

Teleman, Ulf, Staffan Hellberg, & Erik Andersson (eds.). 1999. *Svenska Akademiens grammatik 3: Fraser*. Stockholm: Norstedts Ordbok.

Yumoto, Yoko. 1997. ”Verb prefixation on the level of semantic structure.” In: Kageyama, Taro (ed.). *Verb semantics and syntactic structure.* 177-204. Tokyo: Kurosio Publishers.

Walter, Göran (ed.). 1985. *Stora engelsk-svenska ordboken*. Stockholm: Esselte.